

自然科学部



自然科学部では、校内にあるため池「宮浦池」周辺の生物を中心に、観察・調査を行っています。

宮浦池は100年以上前からあるため池で、さまざまな生物が生息しています。ナマズのような大型の魚が泳ぎ、水面にはヒシが浮きます。アオサギなど、大型の鳥類が住み着いており、冬にはたくさんのカモ類も、飛来します。時には美しいカワセミが魚を捕らえる姿を見たり、コゲラが周囲の雑木林で木の幹をつつく音を聞くこともできます。牛舎に住み着いたドバトを狙って、オオタカがやって来ることもあります。

一方で、池にはいわゆるブラックバスやミシシippアカミミガメなどの外来種も生息しています。こうした外来種の問題も、身近な池で考えています。



アオサギ



ミシシippアカミミガメ

池周辺ではタヌキやキツネも観察されています。魚を好んで食べるトビも毎年のように周辺に営巣します。雑木林では岐阜県では比較的珍しいチビクワガタやオオゴキブリも見られ、樹液の出るコナラには、夏になると近所の子供たちがクワガタム

シヤカブトムシを探しにやってきます。樹液にはオオスズメバチやムカデもたくさんやってきますので、安全には気をつけて欲しいと思っています。

2016年から、美濃加茂市と加茂郡の昆虫相の調査を開始しました。1年で600種余の昆虫の記録を残すことができました。2017年度には1000種を超したいと思います。

学校の置かれた恵まれた環境を活かして、今後も自然を探求する活動を行っていきたいと考えています。また昆虫にとどまらず、美濃加茂市・加茂郡の自然の探求や、環境問題についての理解を深める活動も行っていきます。



アオダイショウの幼蛇



トビ